

整理した課題一覧

分類	課題	参照箇所
住民の意識が低い	意識啓発がされていない	4b9
	計画ができて、市民の生活がよくなっていない	4b10
	市民に意識がない	4b10
	市民意識が低い	4b9
	政治に対する意識が低い	3b2
	行政に対する意識が低い	3b2
	自治会などの活動に関心がない	4a18
	まちづくり基本条例が十分理解されていない	3b6
	人に迷惑をかけなければ何をしてもいいと考える人がいる	3b3
	自分の利害関係しか見ない	3b3
	自分さえよければよいという住民がいる	3b2
	行政から依頼がないので、やらない	3b2
	ワールドカフェへの参加の反応が少ない	3b8
	地域のつながりが希薄である	地域の見守りが不十分である
新旧の住民のつながりが弱い		3b2
縦・横のつながりが少ない		4a18
場が少ない	まちづくりに関わる機会が少ない	3b3
	市民の意見を吸い上げる方法が提供されていない	4b10
	市民との意見交換の場はほとんどない	勉a1
	市民が自由な発想で意見交換し話し合える環境が整備されていない	勉a2
	市は市民の活躍の場を提供していない	3b9
	知識やアイデアを地域から発信する仕組みがない	3b2
	ワールドカフェにはより良くする余地がある	4b10
時間的な制約がある	多忙のため、アンケートの回答ができない	3b3
	忙しい	3b4
	小さな子どもがいる人も参画できない	3b5
	親の介護をしている人は参画できない	3b5
	子どもがいるため、話し合いの場に来られない	3b5
企画財政課には時間的余裕がない	3b9	
参画する世代が偏っている	中心となる世代がずれている	3b6
	意見を出す人の中心が50、60代である	3b6
	若年層や無関心の市民をワークショップなどに引きずり出せていない	勉a2
	若年層の市民参加を促す環境が整備されていない	勉a1
	中学生や小学生の意見が聴けていない	4b6
	若者の意見を聴いていない	4a18
	若者の意見を聞いて進めていない	3b6
情報公開が不十分である	要望をどこに話せばいいのかわからない	3b7
	地域の細かいルールがわからない	3b7
	新しい住民にとって市の細かい情報が得にくい	3b7
	情報を発信する力がない	3b8
	市の情報発信が不十分である	3b8
	市民検討会議を知らない方がほとんどである	3b8
	市が出す情報自体の整理も不十分	3b11
	行政からの情報発信は一方的である	勉a1
	SNSにはリスクがある	3b12
	SNS等の管理に必要な体制ができていない	3b12
	さまざまな意見があるため、情報公開には慎重にならざるを得ない	3b11
	個人情報保護があり、地域のつながりに協力してくれない	3b3
	回覧板が回らない自治体がある	3b10
	市民の意見が他の市民に伝わっていない	3b10
市の将来像が不明確である	瑞穂市の将来像が明確ではない	3b7
	瑞穂市の将来像が不明確	4a18
	もっと住みよい街にする	4a18
	「助けて」と言える街になっていない	4a18

合意形成がむずかしい	意見がまとまらない	3b4
	人口が増え、町の意思形成が難しくなった	3b2
	いろいろな意見を出して決めるというやり方の不備	3b5
	パブリックコメントが集まらない	3b5
	人の本音を引き出すことが難しい	3b5
	こちらから聞いて回ることができていない	3b6
	必要な情報を必要な方から吸い上げることができていない	3b6
	意識の高い人が発言しにくい状況にある	3b2
	意見を言う場の管理は難しい	3b11
	配分するルールを決めるのが難しい	3b2
財政・施設等が不十分である	配分できるお金がない	3b2
	人数不足である	4a18
	コミュニティー施設が足りない	3b4
	費用・時間の関係で、アンケート調査はなかなか実施できない	勉a2
組織の体制に問題がある	ボランティア組織が不安定である	4a18
	市の組織体制に問題がある	3b9
	活動を実践する活動母体がない	勉a2
	環境対策が不十分である	4a18
その他	市民参画による結果が効果的に反映されていない	勉a2
	行政側がどれだけ市民を信頼しているか問題である	3b9

以上の課題を文章化すると

市民の意識が低く、地域のつながりが希薄であるうえに、市民参画の場が提供されていない。そのため、市民は時間的な制約もあり、街づくりに参画できていない。参画できたとしても、参画者の世代に偏りがある。情報が不十分で、市の将来像が不明ため、意見が出しにくい。さらに、それらの意見の合意形成が不明確である。まちづくりの実施にも、財政的な裏付けがなく、支援する組織の体制が不十分である。

上記の課題を解決したものを「理想」とすると

地域のつながりが強い、意識の高い市民が、数多く提供されている場に、時間的な制約があったとしても、世代的な隔たりがなく参画できる。その場では、参画者は、情報を共有し市の将来像を見すえながら、意見交換が行える。さまざまな意見の集約、合意形成方法が明確になっており、まちづくりの実施にあっても、財政を含めた支援体制が十分提供されている。

参画形態の分類

行政の関与度 強(審議会...)

中(助成金...)

弱

アンケート

議員・市長への要望

審議会公募委員

ボランティア活動

市民の参画方法

自治体活動

小中学校の活動

消防団の活動

...

...

...

参画段階

立案

実施

評価

対策

具体策

意識高揚

ワールドカフェ、小中学校での授業、出向いて意見を聴く、メール、SNS、アンケート

場の提供

SNS、

情報公開

大学との連携、

参画方法

財政

評価

体制強化

動機付け

KellerのARCSモデル

Attention 注意 おもしろそうだな

Relevance 関連 やりがいがありそうだな

Confidence 自信 やればできそうだな

Satisfaction 満 やってよかったな